

校友・同窓が語る

同志社100周年への展望 (2)



〈出席者〉

- | | |
|---------|-----------------|
| 山口 泰 弘 | (校友会会長、同志社理事) |
| 秦 孝 治 郎 | (校友会副会長、同志社理事長) |
| 大 宮 隆 | (校友会副会長、同志社評議員) |
| 入 江 隆 三 | (校友会副会長) |
| 武 間 富 貴 | (同窓会会長、同志社評議員) |
| 一 岡 た み | (同窓会副会長、同志社評議員) |
| 大 津 ハ ル | (同窓会副会長) |

〈司 会〉

- | | |
|---------|-------------|
| 大 江 直 吉 | (同志社本部庶務部長) |
|---------|-------------|

百周年を迎えるにあたって

大江 たいへんお忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。

「同志社時報」といたしましては、校友会同窓会の方々から、同志社が百周年を迎えるにあたって、どういふふうな迎え方をしたらいいか、どんな記念事業を推進したらいいかというようなことについて、忌憚ないご意見を伺って、一般の校友、父兄の方にお伝えたいと思っております。

最初に、校友会の山口会長さんからお話を伺い、それからまた同窓会の武間会長さんとお話を伺って、進めたいと思います。それは山口会長から……。



山口 泰弘氏

校友会の姿勢

山口 校友会としては、百周年にたいしてひじょうに深い関心をもっております。でもっと早く発足すべきじゃないかということとを前から思っていた。また校友にもそういう声が強かった。したがって、校友会としては、全国の支部長が百周年の記念事業の委員になり、それ以外に常任委員と申しますか、たえず集まっております。いろいろ討議するのに、京阪神、名古屋を中心に約四十名の方がなっております。ただ、まだ一回も集まりをもっていないのですが、こんどの校友会の總會のときに、第一回の集まりをしたいと考えております。

校友会自身としての事業もいろいろ考えられておりますけれども、校友会としては、学校の記念事業計画にたいして協力態勢ということがひじょうにだいじで、それでいまのところは、学校のほうではどういう記念事業計画をお立てになるか、それを待っているというか、じつはそういう姿勢にあるわけです。私自身としてはいろんな考えをもっておりま

校友会自身の記念事業計画は立てておりません。ただ、学校の方針が立てば、それにたいしてどういふふうな協力することになるか相談し合いたい。したがって、校友会としてはまだ具体的なことを申し上げる段階に至っていないわけです。

大江 それでは武間同窓会長さんにお話を願って……。

同窓会の姿勢

武間 私らのほうも百周年にたいしては、学校が計画をなさる事には、もちろん喜んで参加し、また協力したいと思っております。

同窓会自身といたしましては、私たちの同窓会館が古く、また、ひじょうに狭くもなっております。地方から来た方たちが、あそこを利用して泊まりたいので、その強い要望によって同窓会館の改築をしたいと思います。これは百周年にたいしての大きな計画の一つにしております。校友会のほうがあるプランをお立てになることには、これはまた喜んで参加協力させていただきたいと思



武間 富貴氏

同窓会の方々はとても活動家が寄っている
ものですから、じっとしていられないのです
(笑)。この前の九十周年のときも大塚先生の
お伴をして日本じゅうあっちこちを走りま
わって募金にずいぶん協力をしたのですけれ
ども、同窓会にたいしてなにつ報われなか
ったので、同窓会の方方にたいしては、まこ
とに申しわけありませんでした。で、今度は
同窓会の募金したことがこれこれになりまし
たよということが出ていきましたら、また喜ん
でくださると思います。

それはともかくとして、学校がなさること
はもろろん協力いたしますけれども、同窓会
自身としては、同窓会館と幼稚園の改築をし
たいと思っております。

物から質へ

入江 私は、いままでの記念事業のやり方
が、あまりに物にとられすぎていると思う
んです。建物をつくるとかあるいは何をす
るとか、どここの記念事業にもこういうこと
が多
いが、これはいちばん安易なやり方で、この
際在来の安易な考え方を改め趣をかえて「物
から質へ」前進した百年記念事業を企画して
ほしいと思います。

たとえば、抽象的にはなりますが、それが
たとえ目に見えなくても、全同志社の発展の
基盤になるような仕事を一つ考えてみる必要
があるんじゃないか。学校は、校友からも、
あるいは同窓会員からも、また学生からも、
どれほど信頼されているかということが問題
じゃないか。

それと同時に、教育の方法・指針が、いつ
も新島精神がどうなった、同志社の方針がど
うだということが問題になる。

これはひとつ考えてみなきゃならぬ。これ
はやはり昔の新島先生の精神にどうして戻ら
すかという問題ですね。その精神を確立して
学生ならびに関係の人にどう浸透させるかと

いう問題だと思うんですが、それにはやはり
具体的な指針、一年なら一年という計画を立
てて、その間はこれだけやるという一つのテ
ーマ、はっきりした指導方針を立てていただ
いて、まずそれをやるという考え方で、新島
先生の精神に戻ろうな方法を具体的に考え
る必要があるんじゃないか。

また、この百年にたいしては、学校経営の
規模はどうあるべきか、これでいいのかとい
うことを考えてみる必要がある。大きいもの
にばかりしたって、なんにもならぬ。学生は
かりたくさん探しても、なんにもならぬと思
うのです。これはちょうどシュー・ゲーム
をやっているんです。授業料が上げられない
から学生をよけい入れる。その結果は建物が
足らんから建てる。また金が足らんから募金
する。こんなことをやっていたら、いつまで
たってもだめです。いちおうここで打ち切る
方法を考えてみなければいけません。

それからもう一つは、財政の基礎をどう確
立していくかという問題。これもひじょうに
重要なんです。いま授業料が上げられぬ。あ
るいは政府の財政援助もそう急にうまくいか
ない。ある程度までは拡充されていきますけ



入江 隆三氏

れども、これは運動もしなければいけません。その際に、いまもっている財源をどうして生産化するか、いわゆる生産的な、利益が上がるようにどうしてもっていくかという問題、これはもっと積極的に真剣に考えてもらいたい。

もう一つは消極的に考えて、どうして事務能率を上げるか。こんなことで立っていくはずがない。問題が起こるから、こうだと。そんなことを言っていたら、いつまでたってもできない。したがって、ここでもう少し考えて、事務を機械化する。容易に機械化できるものなら、機械化もする必要がある。これこそ生産的になる。そういうものに金を注ぐのはいい。そして人を少なくして経費を節減する。また反面において、教授なんかの給料

をもっと高くして、精神的にりっぱな教授にもっと来てもらおうということもできるのじゃないかと思えます。

それから、こういうことのためには、学校の法人のほうももちろんのことですが、各団体の役員方も、もっと若返らなければいかんと思えます。われわれのような年寄りが出て、これでいいのかと思う（笑）。七十三歳にもなっていくまでも出ているべきじゃないかと思える。理事会に行きましても、年寄りばかりです。若い人は二人か三人。こんなことで新しい時代の仕事ができるかと私は思うんです。ですから、もっと若いものを注入しなければいかぬ。そして、これは案で、いろいろ批判があるかもしれませんが、四十五歳から六十一、二歳までを中心におくべきだ。学校

でも、教授の定年は六十一、二歳ですから、その辺までの人でやる。六十歳以上の人は必ずしも悪いとはいませんが、少なくとも二分の一は四十五歳から六十歳、それから四分の一を六十三歳以上四分の一を四十四歳以下こういうふうに分けていけば、ひじょうに発渾たるものができてくるのじゃないか。六十歳以上の人も顧問的な立場でいろいろ指導を

されるし、また若いものは新しい考え方も出てきますから、四十五歳から六十歳の方が長老の方々に援けられながら批判されつつやっついていければ、ひじょうにいいのじゃないかと思うんです。またそれくらいは決断がなければ、現在この百年の計画もやっついていけませんよ。いままでのような漫々の考え方でどうしていけるかと思う。だから、お互いにこの百年を迎えようとする機会にいちおう譲って、若い人にそういう事業をやっってもらってやっついていけば人は四分の一のなかに残らなければならないので、決断と勇気ある仕事はできません。年寄りではできません。どうしたってイージー・ゴーイングになります。

大江 ありがとうございます。入江副会長さんからは、百周年は単に建物を建てるというのじゃなく、教育内容を充実して、建物と学校の教育がシソー・ゲームになるようなことなく、悪循環を断ち切ってやれ、それからもう一つは、首脳部が若返って、若い人が中心になってやるべきであるという、熱のこもったご意見がありました。引き続きまして、同窓会の一岡副会長さんのご意見をお願



一岡 たみ氏

いたしました。

入江 ちよっともう一つ前に、審議会とか協議会というものをこしらえてやってもらわなきゃいかんと思います。そういうものをこしらえて、そしてなおかつ全部の会員の信頼を得て、その上で寄附をやるならやりやすい。こういうものは委員会ですら十分検討してやらなければ、これだけやってきているのだから、これは出すべきだという考えになる。ここへもっていかなければ嘘です。寄附ばかり集めるのが能じゃない。

一岡 ただいま入江さんからおっしゃったようなことは、いつでも会長さんからもいわれているのですけれども、同志社に魅力がないのか、どこに魅力がないのか知りませんけれども、若い人がやってくれない。それでし

かたなしに、わたくしども相寄ってやっておられますので、なかなか事業が進まないのですけれども、若い方、このごろのことばでいうなら、ヤング・パワーというのですか、やってくれるのに越したことはありませんけれども。

私の考えとしては、九十周年のときはもっと早くから計画を立ててやっておられたと思うのですけれども、百周年のときが来るのに、わりあい低調ではないか、もう少し燃えてもいいのじゃないかと思っております。

大江 それでは、学校にたいするご注文、ご意見等がいろいろございましたので、秦副会長にお願いいたします。

秦 いま四人の方から発言がありましたから、それに関連があったものを多少申し上げたいと思います。

百周年の記念事業をやるべきかやらないかという問題なんです、これが時期尚早であるのか、あるいは当然この機会にやるべきであるか、それからいま入江さんのおことばのなかで、九十周年をついこの間やったのだから、百周年はちょっと早すぎるということである。これは四年先なんですけれども、その

ことも相当重要だと思うのです。それからもう一つは、大学にたいする風当たりが今日はわりあいに強い。そういう点からいいますとこの時期は少し早すぎるということもまた考えてみなきゃならないと思います。

九十周年から

百周年へ

ところが、もうすでにある学校あたりでは百周年に向かって計画をしておるところもございいます。それから同窓会のほうでは、さきほど武間会長がいわれたように、同窓会館の問題は相当進んでおる。前向きな考え方が進んでおるといような場合もございいますのでその点を勘案いたしますと、百周年をやるべきだと、これだけでもなるべく早くきめておいていただいたほうがいいのじゃないか。

それからもう一つは、その規模ですが、私は私なりに九十周年の記念事業を参考にいたしまして、あのときは寄附金は十億、学債が五億、それにたいして寄附金が九億弱、学債は五億全部達成した。そういうものをふまえて考えてみまして、私なりに考えますと、や



秦 孝治郎氏

はり寄附金で十億、学債で十億、少なくとも同志社ともあろうものが百周年の記念事業をやるのに、寄附金は五億で学債は八億というような中途半端なことではできないのじゃないか。しかし、ここには実業家出身の方、あるいは実業家で現役の方もおられますから、ひとつお伺いして、批判してもらいたいと思います。私はやはり見通し等をつけまして、杜撰な計画でなしに、完遂するという点をはたしてどうなるか、ということも考えてみなきゃならんと思います。

そこで学校の計画については、まだ学校のビジョンというものがわからないから、なんともいえないとさきほどおっしゃったのですが、学校のほうは、中・高が二回、大学部会が二回、連合で一回やってみましたけれども

じつは目に見える具体的なものというのは、実際においてはまだ具体化しておりませんしまだ整理しておりません。この場合に私の思いますが、学校であまり大きな柱を立てすぎてやることはどうかと思います。やはり田辺という土地が三十万坪ありますから、それにたいしてどう対処するか、それからもう一つは、今出川校地にたいしての設備等はどうか、同時にまた岩倉高等学校なり、香里の中・高なり、あるいはまた女子部なりに、九十年でやりえなかったものの残りがどういふものがあるかというところを考えてみますとやはり答えは田辺をどうするか、こういう問題になると思います。校友会にたいしましては、九十周年である程度私はやりえたと思えます。新島会館にしましても、全部改装したり修理して、今日ああいうふうに使えるようになりまして、それから東京のクラブ、分室、それから大阪のクラブ、大阪の校友会の支部等が、ああいふ形勝の地を手に入れることができまして、あのときはああときなりに責任を果たしたと思っております。

けれども、同窓会には何一つできなかったと思うのです。それから同窓会と関連があり

ますけれども、幼稚園についても、これまた何もできなかった。幼稚園に五百万円の積立金をさし上げた、それだけであって、同窓会にたいしてはほとんどゼロだと思えます。この際は、さきほどおっしゃった同窓会の希望については相当重要視して、なんとか考えたい。

校友会につきましては、前に山口会長から校友会館の問題がありましたから、これは私は触れませんが、私から副会長としてきょうはじめて発言いたしますのは、せっかく新島会館がああいうふうにあるのですからあれのちょうど東に百坪余りの土地がありますから、そこへ三階建くらいの鉄筋コンクリートで、適当なホテル式のものになりますかあるいは集会所になりますか、加えますと、ちようど両方が生きるのじゃないかというふうなことを、私は附近におるものですから、ときどき考えるようなことがございます。こんどは校友会はどれだけ金が集まるかどうかこれが一つの鍵になりますが、おって皆さん方のご意見を伺いながら、校友会としての施設を今後もし加えていかなきゃならんとすれば、これがちようど合った程度のものじゃない



大津 ハル氏

いかというのが私の考えです。

大江 秦副会長から、九十周年記念事業の計画とそれの実施についてどういうふうなことをしてきたか、そういう上に立って、百周年を迎えるにはどうしたらよいか、さらにまた新島会館の東側に校友会館のようなものを新しくつくるようにしたらどうかというような、いろいろ過去の反省と経験の上に立ったご意見を伺いました。ひじょうに参考になると思います。そういう話を中心にでも結構ですし、また別の角度からお話を伺っても結構です……。

山口 いま秦さんからお話がありまして、百周年はやるべきか否かという問題、この根本問題をきめてほしいというお話があった。それから時期的にいまが早いのか遅いのか、

これは大学の問題もあるので、どう考えていかかというご意見が出たのですが、われわれは百周年はやるべきものだという前提に立って考えておるのですけれども、学校のほうはその点はどうなんですか。学校のほうでやるんだという前提がはっきりしていないと、校友会ではたいへん迷う。

秦 入江さんから、ついこの間やったばかりだから、時期が早いというようなご意見もあったものですから……。学校のほうとしては、だいたい全体としてはやるべきだと思います……。

山口 理事会としては、だいたいやるべきだということになったのじゃないですか。実行委員会ができて……。百周年はやるべきだという前提に立って皆さんもお考えを願っていると思いますから、その点は、これは副会長でなくて、理事長として確認しておいてほしい。

入江 私の前提はやるということです。具体的建物ばかりの有形的なものばかりではないのかと、それを言うているんです。記念としては、百周年事業はやりたい。ただしそういうものだけがいいのか、もう少し考えてみるべきじゃないか。ある程度は必要かもしれません。いまの老朽のものは改築しなきゃならんかもしれません。それはありますけれども、それ一辺倒にならんようにしていただきたいということなんです。

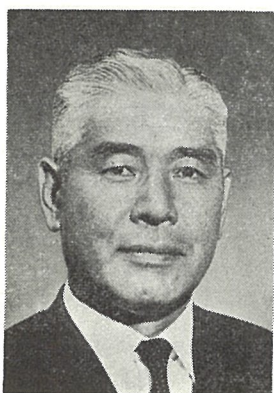
山口 その点ひとつ伺いたい。

秦 いま入江さんは、目に見えるものを目に見えないものということをいわれましたが、入江さんのいわれたのは、目に見えないものなんです。ところが九十周年のときに、十のなかで第一にキリスト教教育の徹底強化ということを掲げた。けれども、これはどうとう持ち越しなんです。だから、あなたのいわれることは、だれしも異口同音にいわれるのにきまっておると思いますから、これは宗教教育研究所といいますか、あるいはまた同志社教育総合研究所というものを、あなたのいわれる審議会のようなものをもっていって、そしてこれをどうやるべきかということを具体的にやる機関を設けないといけないと思いますから、いまあなたのおっしゃったことは一つの研究所とか、活動の源泉、そういう場を置くということだけ決めておかれたらいいと思いますね。

入江 ちよっとそれになりたいして、反駁じゃない、結構なんです、しかし、九十周年でやれなかったよいは百年でやるべきだということだけれども、一つのを決めたら徹底さしてほしい。異見があったら、それを説いて着手、実行していただきたいのです。
秦 わかりました。

大江 それではそういうことも含めて、大津さんにご意見をお伺いしたいと思います。

大津 さきほどから同窓会館の問題が出ておりましたが、これは百周年にこだわらなくても、現在老朽しているので、九十周年より前のときから改装したいという声が出ておりまして、百周年という名目で募金すれば募金しやすいのじゃないかというような考え方も加わって、どうしても百年にはやってみ



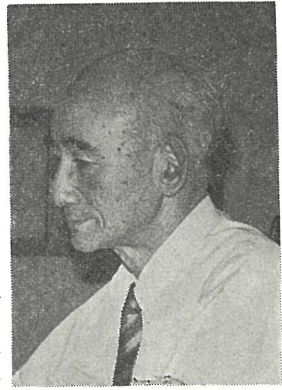
大宮 隆氏

たい。同窓会館を建てると申ししても、土地から探すようなことでは、とても私たちのテコに合いませんし、現在あるところを改装さしていただいたら、それで結構なんで、ほかにもっといい場所を下されば、それに越したことはないんですが、そこまで欲ばらなくても、現在の場所ですから改築したいということですよ。

それから幼稚園が同窓会とはつきものでございまして、ほかの幼稚園と比べますと、現在の同志社幼稚園というのは、はっきりいえば、大きな顔をして幼稚園といえんような園舎と申しますか、幼稚園の形態じゃないかと思ふんです。そういうことも含めて、同窓会館はいま地方の同窓生がとくに望んでいることとすし、百年にはどうしてもこれをつくりたい。一刻も早く決定していただきたい、これがいつも私たちの役員会に出るのです。早くきめて、早く募金に着手したい。建物は百年にできたら、記念事業としてはいぢばないと思ふのですが、募金を始めんことには、空手形で募金できませんので。そう思つていたら、いま秦理事長さんが、同窓会には九十年にしかかったから、こんどはという協力的

な話をいただいて、きょうは出て来て、皆さんにおみやげができたと思つて喜んでおります。(笑)

それから入江さんがさっきおっしゃった目に見えたものでなく、精神的なといいますかそういうことについては、同窓会でもいつもよく問題になります。これの具体的な例として、これは私ははっきりいって、どっちがどうとは申しませんが、両親とも同志社教育を受けた子弟が、ともかく両親がどうという事は考慮に入れないで、試験に落ちたらだめだ、と。同窓生なり校友の親がぼんやりした子を生んだのが悪いのかもしれないけれども、そういう憂き目と申しますか、悲しんでいる同窓、校友が多いわけですね。地方へまいますと、とくにそれを聞くのです。やはり両親とか、あるいは片親でも同窓社の出身者の子どもというものは、それが入ることによつて同志社というものが続いていくような気がするんです。現在の学生の何パーセントが同志社の関係者の子どもで、親も親類もだれも同志社に全然関係のなかった子弟が何パーセントかというような、在校生の家族調べでもまずやってみていただくと、い



大江 直吉氏

ま入江さんのおっしゃった精神的な立て直しの一つの資料になるのじゃないか。そういうことによって、学校そのもの、あるいはキリスト教的な教育ということがある程度徹底するのじゃないかというような気持をもっておられます。これは百年記念とは申しません。来年からでも実行できることはしていただきたいと思えます。

山口 その問題なんですけれども、校友会でも、全国各地から同じような意見、要望があるのです。校友会理事会でも相談したんですけれども、それにたいして多少の意見もありますけれども、やはり最終的には、いまおっしゃったような方向にあるわけです。

校友会としましては、われわれは同志社大家族主義ということばを使っているんです

よ。要するに同志社の校友の子弟については入学について多少の配慮をしてもらいたいたいことを考えまして、これはいわゆる同志社教育を徹底さす上においても、また最近ひじょうに困難な学校財政を維持する上においても、いろんな意味から必要だと思えます。校友会としましては、本年度の継続的な議題として、この問題を取り上げることにしたのです。おそらくこれは校友、同窓、それから連合父兄会の会合でも同じ意見が出るのじゃないかと思っております。

大津 さっき年齢の問題で、四十五歳とか具体的におっしゃったのですが、同窓会の現状は、いまおっしゃる年輩からいきますと、会長さんが有能な六十五歳以上でいらっしやるのですけれども、いつも若い人を出すようにとおっしゃっております……。

山口 私も同じ年でぐあいが悪いですが（笑）……。

大津 いちおう改選のたびに、若い人なのかからということと努力しておられることです。平均年齢はまだちょっと勘定しておりますが、ともかく五十代ぐらいに……。

武間 いちばん若い人は三十代ですね。

大津 三十代がいらっしやいます。だから平均しますと、役員年齢は五十代になるかならんかというところじゃないかと思うんです。四十五歳ほどで社会で働いておられるとなかなかご自分のお仕事に忙しくて、校友会のお手伝いもできないという方もいらっしやるでしょうし、女子の場合も、自分の家庭が安定する前は、なかなかお手伝いができないんですね。だから、年齢の問題でも同窓会はいつも悩んでおりますけれども、十年ほど前から比べますと、現在だいぶん若返っております。若返っておりますけれども、なかなか出席という点でむつかしい問題も出てまいりますし、やりにくいと思えます。

山口 そういう考えをもっているというところで大進歩ですね。

大津 そういう意見はまことにいいご意見だと思えます。同窓会もいちおうそういうふうに傾いておりますし、実現しつつあるのですけれども、でも、若い人ばかりというわけにもいきませんので、歴史がブツンと切れんように流してもらわなければならないというところに、やはりむつかしい問題がございます。同窓会としては、そういう意味で年齢の幅を

上から下までということを考えて進めております。

桑 さつき同窓会館のお話がお二人から出ましたけれども、幼稚園の坪数は、どのくらいを考えておられますか。

一岡 百坪ほどとちがいますか。

桑 だいたい百坪ですね。

大津 私たち素人でよくわかりませんのですが、四階が建てられれば、せめて四階まで建てたい。そうしますと、一階を幼稚園にしても、三階が同窓会に使えますね。それくらいでないと、百坪の二階ぐらいいしか使えなかつたら二百坪ですから、それではわれわれの構想にはちょっと淋しいのです。四階まではいいというのが最低なんです、細かいことは別としましてね。

大江 武間会長さん、年齢の問題とか、その辺のところをどういうふうに……。

武間 会長が「はばあ」すぎますので。それで申しわけないと思ってるんです。改選のたびにいつでもそれはやかましく言うてるんですけども、「はば」がよいというて置いていただいているんです。来年三月が改選期ですから、やはり若い人に譲りたいと思

っています。おかげさまで、同窓会の役員は若い方が多いのです。三十代、四十代、五十代の方がとにかくぎゅっと締めてくださっておりますので、うまくいっております。

入江 年寄りがみな悪いという意味じゃないんです（笑）。

武間 それはようわかってるんですけどけれども、やはり頭や体の動きが鈍いですよ。いつも若い方にはげまされて私は動いているんです。そして若い人たちは若い人たちの考えを出してくれていますので、おかげで同窓会は全部が役割をもって活動してくださっておりますから、ほんとにうまくいっているわけなんです。

山口 若返りということはひじょうに難しいなことで、ぜひそうあるべきで、そうしなければいかんと思えますけれども、実際にやるということになると、実情に合わして考えていかなければならない。しかし、これはやらなきゃならんのだいじな問題です。

大津 具体的に何歳までを四分の一とおっしゃった。この案は、私も理想的だと思えます。

大江 大津副会長さんから、同窓会館の建

築をやりたいというような問題、あるいは校友の子弟には同志社教育を受けさせてやりたいという強い要望がありました。じつはこのあいだの担当理事会にこの問題が生まれて活発な意見が出ました。一つは、学内の一貫教育の問題で、中学校から高等学校へ行き、さらに高等学校から大学へ行く。そういう一貫教育について批判が出ました。それからもう一つは、同志社に学んでいる校友の子弟に点数一本主義でいくということについても問題があるのじゃないかという意見が出たり、山口会長からお話があったように、大同志社の家族主義を生かすようなことができないかというような相当活発な意見が出ましたので今後そういう形で検討を願うことになると思えますが……。

山口 人数の問題も、現在の同志社の学生のうち校友の関係の子弟がどのくらいいるかその人数の調査までしてほしいという意見が出たんですが、これはひじょうにむづかしいらしいんです。下から進級してきた人はわかるんですけども、家族調べをしないとわからない。しかし、具体的なことは考えてもらって……。

大江 そういうこともひっくりかえり、大宮副会長さんから……。

大宮 さきほどから年齢の話が出ておりま
すけれども、私の意見はちょっと皆さんとち
がいがいまして、私は年齢にこだわる必要はな
い。要はその人が仕事をしておるかおらんか
という問題である。われわれは実績以外に何
ものもない。理想論は一銭にもならぬ。要す
るに仕事をするかせんかだという社会におり
ますので、私の思想は、年齢にこだわる必要
は毛頭ない。ただ、若い人の意見も十分に聞
くようにはしておかなければいかぬ。

それから百周年は、これはおやりになるこ
とはひじょうにいいと思うんです。私どもか
らしますと、次から次で、忙しいなという感
じは、率直に申し上げましてございますが。

ところで、金を集めて、校友も一生懸命協
力しているんですけれども、これはほんとに
ごく少数の一部の教授ではございますけれど
も、校友会が学校に口を出すのはけしからん
といわんばかりの態度、そして一生懸命金を
集めたその建物は、遠慮なしに使っている。
なにも顔を見るたびに、「ありがとうござい
ました」と礼をいえというようなことをいう

ているわけではございませんけれども、やは
りもっと親密感というものが学校の内部にな
いと、あっちこちから不平の起る原因に
なる。

早い話が、さきほどから出ておりますけれ
ども、校友の子弟が入学試験で一点ちがい
ある。それはずいぶんの人間がおるでしょ
うが、いったい、英語で何点、他に一、二点ず
つちごうた。合計したら七、八点ちごうた。
その七、八点の差は、何百人になるからあか
んという思想は、ぼくはどうもおかしい。一
方で協力さしながら、一方で、理論はそのと
おりにちがいないにしても、やはりそういう
ことをいうのは、どうも姿勢がおかしい。校
友は金だけ集めて、学校のことは黙っておれ
ということになったのでは、どうもおかしい
のじゃないか。これもいいにくいことをい
ますが、一方で校友の子弟ともいえども、英
語で何点ちごうたらあかん。単語一つ余分に
ちごうただけで人間がどれだけちがうのかと
私らはいいたい。一方で、学校に勤めている
者の子弟は特別待遇、相当の恩典を与えて
いる。一方で堂々と特典を与えておきながら、
一方では純理論で割り切ってしまう。どうも

態度がちぐはぐである。教職員の子弟の特別
待遇をぼくはやめるとはいわぬ。けれども、
そういう姿勢に立つのなら、校友の子弟につ
いてもそういう姿勢に立つて考えたらどう
か。

それから、これは先々出てくる学生の指導
という問題でございますけれども、実際は先
生を責めるのは気の毒で、このごろは親でも
なかなか自分の子どもに言うことを聞かせん
のに、他人の子どもに言うことを聞かせられ
るはずがない。これはひじょうにむづかしい
ことで、学校ばかりに責任を負わしても、こ
れはしかたがないのではありますけれども、
学校にすることを学生が楽しく思い、しかも
それが同志社の大特徴であるように学校に集
中的にお金を使ってもらいたい。たとえば図
書館を全部冷暖房にして、慶応にも早稲田に
もないような図書館に集中的にお金を使って
いただき、私立学校にしてあれだけのものを
つくったということで、学校関係者のなかで
話題になるような図書館をつくって、学校の
授業以外にも勉強できる。そして学生や若い
人たち、あるいは父兄の間でひじょうに話題
になるというようなところに集中的にお金を

使う。そしてそれを使うのも理事会だけできめないで、お金を集めるほうの意見もひとつ聞いていただいで、そういうお金を集中的に使っていただきたい。

同志社の特徴というたら、新島精神の話ばかり出てきますが、それはまことにだいじなことですけれども、しかし、学校の教授自体に、いったいキリスト教のわかっている人が何人あるかという問題です。たとえば新島図書館とかいって、学生のことばの間に、日常生活の間に、新島、新島ということばが出てくるようにして、そういう施設で自然となじましていく。ただ精神教育だけで、学校の先生が演説するだけでは、学生はそっぽを向く。居眠りするか何かで、実際問題としてなかなかできない。できないのをできるようにうまくいことやっていくのが教育のあり方ではなからうか。それにはお金を集中的に使っていただきたい。こういうふうな希望をいたします。日ごろ考えていることです。

大江 いろいろ多彩なご意見をいただきましてありがとうございます。大宮副会長さんからは、学校と校友が親近感をもてるようなそういう具体的なことをぜひ考えてもらいた

いとか、あるいは学校が図書館をつくるなら日本の私学にないような模範的なものをつくらって、金を生かすようなことをやってもらいたいという、学校にたいする鋭い批判もたくさんいただきまして、学校側としても、反省すべき点が種々あるのじゃないかと思っております。

秦 いま大宮さんのおっしゃったことばをちょっと説明しておきますと、教職員の子弟にたいする優遇措置は現在やめております。

それからもう一つ図書館は、九十周年の記念事業として同志社大学の中央図書館というものが残っております、これはたぶんことしの年末あたりから着工して、大宮さんご期待に添わないかもしれないけれども、冷房で、だいたい二千五百坪くらいなもので、そして現在の啓真館はいずれは取れるのですが、あの啓真館を含めた烏丸今出川の玄関口で、どこから見ても同志社のメイン・ビルディングといえますか、玄関の堂々たるものとして、相当のお金を入れることにして、これは百周年でなく、九十周年の残っている事業としてやっていく計画を着々進めております。

武間 教職員の子弟の優遇というのは、授業料免除はおやめになったんですか。

秦 いや、それはありますが……。

武間 あれは大きいですね。

秦 入学試験については全然いま考慮しておりません。

山口 この前の理事会で、あれを継続してやることについて批判が出たんです。しかし本年度はとりあえずということになったんでしょう。

秦 そうです。毎年問題になるんです。

山口 教職員の子弟のああいふ優遇措置はかつては、学校の教職員にたいするいろんな施設がひじょうに足りなかったしするから、そういうこともあって、ああいふ処置をとった。現在の学校は、一般社会の企業とけっして劣らない状態にあるので、すべきでないんじゃないか。またこれはいろんな意味においてもぐあいが悪いんじゃないか。この次までにこれは考えるということになったんですね。ことに学校財政がひじょうに窮迫してきただから、あれは年間二千万くらいですか。

秦 二千万ちょっと越えるかもしれませ

山口 二千万という金は、今日の窮迫した学校財政では、相当の負担でもあるし、またそういうことはやるべきじゃないという強い意見が出ましたので、考えようということです。ことに全額免除というようなことは、どうしても考えるべきだと思います。

田辺の開發を……

この前、ぼくは校友会としての現在時点に立っての百周年にたいする姿勢というものを、出しましたけれども、校友会としてでなく、一校友という立場から、もう少し具体的に、このさい百周年をやることについて、九十周年の反省も大いになければならんし、やる課題について意見もたくさんあるけれども、さつき大宮さんのおっしゃった資金を集中的に使うということは、ぼくはたえずいつている問題なんです。九十周年の金は、いろんな方面にばらまかれていくんです。九十周年の金を足しにつくったというものはありますがしかし、これは九十周年の金でつくったというものは何もない。たとえば京大がこんどメイン事業として体育館をつくったということ

がありますね、やはりそういうふうの一つのまとまったものにしていただくほうがいいんじゃないか。これは私の希望で、理事会とかいろいろの会合でお願いしているんですけども、たまたま田辺の關係を運動しているものから、さつき理事長からもいつていたのだいたんだけれども、田辺の開發ということを百周年の記念事業の中心に上げていただくことができれば、百周年記念事業としては最も適切だし、また対外的な寄附金募集についても、説明もひじょうにはつきりすると思います。これはぼくの希望なんですけれども、ぜひ田辺の開發を中心に取上げていただくようにこの機会にお願いしておきたいと思うんです。それから事業には、さきほどもお話が出たように、目に見えないものと目に見えるものと二つあるわけですけども、目に見えないもののほうが見えるものよりある意味では大切なんです、それにはやはり学校の姿勢と教職員の自覚ということがひじょうにだいじだと思えます。これはひじょうに問題なんですこれは教學面については、学校自体がしっかり考えてほしい。

それから校友会自体も、いま何をやるかと

いうことは、はっきり決めておりません。同窓会のほうは、同窓会館ということですが、校友会はどういう形になるか決めませんが、けれども、私個人としては、やはり校友会も同窓会と同じような目的において、校友会館を建設したいということを考えております。これはやるとなれば、校友会、同窓会というのはできるだけ二重投資にならないように、十分話し合いて、具体化してやることできれば、ひじょうにありがたいと思っております。

教育基金の設定を……

武間 さつき入江さんから、キリスト教教育をせよというお話が出ましたけれども、むしろこのごろ同志社からキリスト教を追い出そうと運動をしている人達がおられるのでほんとに悲しいと思います。

それからも一つ、百周年の記念事業の一つとして、どうしても同志社に大きな基本金をつくられたらどうかと思います。毎年のベースアップと期末手当のために、

先年アメリカに行ったときに、あっちこっ

ちの学校を見たり聞いたりしたときに、みんな大きな基本金をもっておりますのでうらやましいと思いました。が、しかし、コロンビアのように大きな基本金をもっていて、おまけにニューヨークのどまんなかのロックフェラープラザのあの土地をもらって、地代が全部コロンビアにはいるのですが昨年行ったときには、たいへんな赤字で困っているというんです。また、エール、ハーバード、プリンストンがそうです。いままで授業料と卒業生の寄附と、その基本金でまかなってうまくいっていたのが、最近はそのすごい赤字が出てくる由で、総長と、いわゆる理事長的な格の方が年じゅう学校をあけて全国の卒業生をまわって、一年じゅうの経費を集めてきて赤字を補っていたのですが、最近はなかなか、これも困難で、高い授業料と、教授内容の貧弱さを理由に、学生達の退学が多く、閉鎖する学校が非常に多くなった由であります。前の同志社総長、大塚先生はお年召しにも拘らず、九十周年の時には、随分、募金に、東に、西にと奔走して下さいました、全く、この先生のご努力には感激いたしました。

今一つ、願いたいことは、同志社には、学

問的にも人間的にも、立派な先生方が、沢山おられますが、口はばたいたことを申して、恐縮ですが、他の全部の先生方も、もっともっと学問的に、人間的に、生長して頂きたいと思います。学者として、教育者として!!
いまいちはんほめたいのは、幼稚園の先生方だと思えます。それはすばらしいですよ。

山口 ぼくも多少内部に首つっ込んでるので、理事長、総長は気の毒だと思えます。それは学校の運営の問題だけれども百周年事業に関しては、さっきからもいろいろご意見も出ましたし、十分に過去を反省しまして、そうしないと、どうも校友、同窓、外部の声を聞いておきますと、百周年記念の募金というのは、ひじょうにむづかしいと思うんですよ。いま一所懸命学内の意向を汲み上げて、それをまとめていただいているんだけどもやはり百周年事業でいちはんだいじなことは、学内外の合意がほんとに成り立たないといままで情勢では、仕事は進まないと思うんです。そうでなくても、大学にたいする一般の風当たりは、さっきおっしゃったようにひじょうに悪いし、そして一昨年あたりまで九十周年をやっていたわけですから、あまり

にも接近していて、百周年に必ずしもいい条件がついておりません。だから、こんどの募金は海外進出ということを理事長は前におっしゃってりましたが、なかなかそうもいかんようですよ。

秦 海外はだめですかね。

山口 やはり校友、同窓は一つの基盤になるわけですから、学内外の合意が成り立つようには本部としてはご努力願いたいと思います。われわれ校友としてはできるだけ百周年記念に協力の姿勢をとりたいと思っておりますし、同窓会もおそらくそうだと思いますが学内外の合意に十分ご努力願いたいと思う。
一岡 理想としましては、やはり九十周年以上のことをしませんね。

入江 九十周年と同じようなことができませんか。あまり接近しすぎていから、ひじょうに心配です。

秦 さつき入江さんがたまたまいわれたことは、私自身が自問自答しているんです。さつき九十周年の収穫といえますか、成績を申し上げたんですが、今日、同志社にたいしてのみならず一般の大学というか、私立学園にたいする評価といえますか、信用といえます

か、信頼といえますか、それがあの時分よりやや低下していると思うんです。そういう点と、それから九十周年は、ほんとにこのあいだまでやっていたんですから、それとの間隔があります。だから、そのノロシをすぐ上げたほうがいいのか、あるいは、二、三年先にやったほうがいいのか。ところが、ここでちょっと考えますと、あまり空間があきますと、皆さん方が気乗りしないと思うんです。だから、ぼちぼちながらもやはり準備にかかったほうがいいんじゃないか。

山口 いまの学校の募金にたいしては、内の空気がひじょうに悪いですけれども、しかし基本的には、百周年をやるんだということとは、それとなしにみな知っておりますよ。だから、あまり中途半ばな考え方をしないでやるんだという姿勢をはっきりして、思い切った態度に出たほうがいいんじゃないか。これは私の考えだけでも、そういう感じがあります。

桑 私もそう思います。

武岡 一つのケジメですものね。

大津 九十年はやめても、百年はせんならんことですからね。九十年がハデになりすぎ

たわけです。あとがちょっと長引きすぎましたね。それで近くなったということ……。

山口 九十年が十億だったら、貨幣価値の変動から見たら、百年は二十億くらいにならないと……。

桑 それなんです。貨幣価値の変動があるから。

山口 同じ事業ができないでしょう。

桑 もう五年先であれば、二十億になるのは当然です。それを考えましても、十億はあぶないと思うていくくらいです。こんなことを私がいったらおかしいですけれど。

大津 募金額は、そのときそのときの分相応の額でもいいと思うんですよ。気持があってもできないということがありますから、できなければそれでもいいと思うんですよ。だから、金額が大きいのが必ずしも記念事業じゃないと思うんです。もちろん金額が多いに越したことはございませんけれども、目標をつくって、それだけ達しなかったら、百年事業は失敗したとか、できなかったというのではなくて、たとえ金額はその目標に達しなくても、精神的な面で同志社がほんとに同志社らしい学園として、校友にもまたほかの関係

者にも認めてもらえるような事業をやれば、これはりっぱだと思うんです。だから、目標額に達しないかもしれんからというような尻込みをして、募金が一日でもおくれることのほうが私は心配で、やはり長いあいだをかけて、三年よりは四年、五年のほうが募金としてはたくさん集まりますから、ともかく一日でも早く始めたほうが、目標額に達する率は多いと思います。目標額をきめるのはだいじですけれども、それに達しなくても、私は百年にふさわしい仕事はできると思うんです。だから、一日も早く百年事業というものは歩み出してほしいのです。

同窓会としては、ともかく気がせいしているわけです。二年間の募金より三年間、三年間より四年間の募金のほうが効果があることはまちがいないのです。結局、積み立てて募金に応じようというのが女のみみっちゃん考えですから。ポンと出せばいいですけれども……だから、もし同窓会館の建設の許可がおくれますと、同窓会館だけで精いっぱい。もしそれが四年あれば、二年は同窓会館に寄附してあとの二年は学校に協力の募金ということもできますので、そのいう意味からも、やる

に積立金を分けるときは、要求だけは……。
山口 とにかく思い切ってやらないと……。

成にいちばん早いことなので、あまり心配せずに、百年事業はするのだということで、はっきりして……。

桑 お若いだけあって（笑）……。

大津 若いことはありませんけれども、百年事業はするんだというアピールをまず早くして、何をするという項目を出す前にでも、募金を始めていいと思うんです。

桑 学校側のことをきょうはいうてはいけないかもしれませんが、百周年に向かってのビジョンの一つのまとめ方は、要するに学内は出そろってききましたから、いざれ整理しまして、皆さん方のお手もとに申し上げます。それからこんどは、さきほど山口会長がいわれたように、校友会のほうは五月にちょうど総会をしますから、そのとき各支部長、すなわち記念事業の委員が集まれますから、そのとき皆さん方のご意見を伺って、そしてこんどは二十名ぐらいの準備委員というものをつくるわけです。少なくとも三、四回会合を開いて、ことしの十一月末の例の創立記念日あのときに具体的なものを発表したらどうか

と、私はこう思っているんですがね。だから大津さんえらい急がれますけれども、それくらいの準備は許してもらわんと、まとまらんのじゃないかと思えます。

それから山口会長がいわれたように、田辺にたいしてどういう施設をやるか、これはやはり全学的な問題になると思います。あそこに縄文時代の住居跡がありますね。じつは昨日も、あれを大学の考古学の教授が京都大学の専門家と相談して、私はべつにたのまないのに、ちゃんと図面まで書いてこられたのです。つまり上古の住居のいろんな参考資料を出土品のなかから集めて、そして家の形、全部木造の萱ぶきですけども、そういうものを持ってこられて、えらいまじめに、いまにもやるような話だったから、金の出どころもないし、まだ田辺委員会にかけ、理事会にもかけなければならんし、考えておりませんけれども、参考に伺いますというておいたのですが、そういうふうには、われわれの知らんところから、百周年に向かっての準備をしておられるところもありますから、やはり早く……。

山口 そうですね。ひとつ思い切って、百

周年に向かって、いまおっしゃったように、どういう態勢で向かっていくかという問題をやはりよく考えていただきたいと思う。そうではないと、前と同じような態勢でやっていたのでは、これはおそらくどうにもならぬ。

一岡 百周年の事業は、ちょっとくらい延びてもよろしいです。

桑 こんどは準備といえますか、構想が早いですし、百周年までは四年間ありますから、だから、百周年をゴールに……。

大津 十一月発表だと、三年半しかないですよ。

桑 そうですね。従来は大塚総長と私なんか、主として理事会の数名の方に相談してやったのですが、こんどは下から盛り上がったご意見をみな汲み取ってまとめますから、前とはややちがっておるのです。したがって、学内の協力も得られると思うのです。前は、学内は、ある学校のごときは、全然そっぽを向いて協力してくれなかったです。私がいちばん感心したのは、大学の工学部は、京都大学の人が、大部分先生ですけれども、一人残らず募金してくれた。ところが、ある中・高は全然成績が悪くて、それでもいちばん最後

と決めたら、一日も早い出発ということをお願ひしたいと思います。それが目的です。それが目的です。

大江 じつは大学、中・高部会で三回にわたって、全部で五十五、六名の委員の人に聞いていただいて、意見を伺ったのです。そのうちの要点を簡単に申さしていただきます。

一つは、財政の安定をしてもらいたい。それと大幅な奨学資金を設定してもらいたい。それからいま武間さんがおっしゃったような教育基金、学校が基金をもたないと、経営が不安定だから、ぜひ大きな教育基金を設定してもらいたい。もし記念事業をやるのなら、これは記念事業でやったんだという建物を各学校ごとに一つつくってもらわなければならない。またキリスト教というが、同志社カラーの教育を徹底してやるようなことにならないと困るのじゃないかという意見。それから、さきほどお話がありましたように、周辺の校地を中心に体育施設をつくるとか、セミナー・ハウスをつくるとか、さらに宗教センターをつくるとか、あるいは同志社の保存すべき建物をもつていって、同志社の記念の建物の地区をつくるとか、そういうこともやったらどうか。それから、図書館、これは

九十周年の事業かもわからんけれども、すばらしい図書館をつくるようにしたらどうか。

それと、慶応がやりましたような百周年の記念切手を同志社もつくったらどうか。これは全国にばらまかれるから、百周年の記念として発行はぜひやったらどうか。

一岡 もうかりますか？

秦 それは一べん相談しましょう。

武間 前にありましたね。

大江 あれは文化切手です。こんどは百周年の記念切手です。慶応が百周年のときに記念切手をつくってこれを各郵便局の窓口で売り出してもらおう。慶応も何万円かは買わなければならぬようですが、慶応は今年で百周年になったんだということが全国の人にわかるので、同志社としても是非これは実行してはという意見がありました。

それから海外の諸大学ともっと交流したらどうか、そういう意見も出ておりました。それとキリスト教の教育をもつと普及徹底させたらどうかとか「新島全集」をこの際ぜひ出したらという意見がありました。以上は七十人ほどの人がそれぞれ意見を出したのを要約したものです。百周年の記念切手は、いま

から準備しないといけないので、話を少し進めておきます。

秦 工学部の学生で、日本のコレクションではナンバー・ワンというのですが、その君とも相談しまして……。なかなか許可はむづかしいらしいですが、しかし今からやれば、記念切手はできるだろうと思います。

山口 どういう標準なら出せるのですか。

秦 やはり百周年とかいうことと、東京あたりで百年の学校はありますけれども……。

山口 有名でないとだめですか。

秦 有名でないとだめです。それからさきほど新島全集のお話がありました。大学の中央図書館といっしょに新島全集は記念事業の一つに入っておったのですが、ようやく足並みをそろえまして、大塚、住谷、オーティス・ケリーの三人が監修になって約七巻か八巻になると思いますが、現在資料は全部できておりまして、先般東京へ行って教文館に交渉しました。

だいたいいまのところは千四百四十万円程度はリザーヴしているわけです。金は残しておりますから、それでもってこれを九十周年